

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービスちから			
○保護者評価実施期間	2025年3月17日 ～ 2025年3月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数)	12
○従業者評価実施期間	2025年3月17日 ～ 2025年3月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年4月10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「特性に応じた支援が受けられている」との評価が高く、児童一人ひとりに合わせた対応が実践されていると考えられる。支援内容の工夫や職員間での情報共有が的確に行われていることがうかがえる。	・行動の背景にある困難さ（例：感覚過敏・実行機能の弱さ）を職員間で共有している。 ・観察記録をもとに、日々の関わりや教材準備に反映している。	・職員向けのミニ研修（事例共有・支援の視点の学び）を定期的に実施
2	安心感をもって通えるという評価は、物理的な安全性だけでなく、職員の関わり方や雰囲気、受容的な姿勢が反映されていると考える。特に、関係性の継続性や、肯定的なコミュニケーションが積み重ねられている点が、子どもの心理的安全性につながっていると思われる。	・「否定しない声かけ」を職員全体で共通ルールとし、子どもの行動や発言をまず受け止める姿勢を徹底している。 ・活動の開始前にその日の流れを視覚的に提示し、見通しをもたせる工夫（スケジュールボードなど）を行っている。	・「好きな遊び」や「好きな物」など、安心要素のリストを作成
3	個別支援計画の策定において、保護者の声や子どもの姿を丁寧に拾い上げ、客観的に整理・反映している点が評価されている。観察やアセスメント結果を根拠とし、形式的ではなく実効性のある計画づくりを行っている点が、信頼につながっていると捉えられる。	・支援会議では、全職員からの意見を集約し、特定の視点に偏らないよう意識して分析している。 ・支援計画を職員全員で共有できる仕組みを整備し（職員用クラウド、アセスメントシート等）、全員が同じ方向性で関われるようにしている。	・計画の「ねらい」と「普段の様子」をスタッフ間で月1回共有・検証し、支援の精度を向上

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や幼稚園、地域の子どもたちとの交流の機会について、保護者から十分ではないとの評価が見られた。	・児童センターでの活動を通じた地域交流を想定していたが、保護者に十分認識されていない。 ・実際にも地域の子どもとの関わりがほとんど見られない状況にある。	・無理に交流を増やすのではなく、“関わりが期待できる環境で過ごしている”ことを意識的に共有
2	非常災害への備えに関する設問では、定期的な避難訓練等の取り組みが保護者に十分伝わっていない可能性が示唆された。	・訓練の実施そのものよりも、その内容や頻度を保護者に可視化・共有できていない点が課題といえる。	・避難訓練や防災に関する取り組みの実施日・内容を月ごとの通信や掲示で明記 ・訓練実施後に「今日の防災訓練のねらいと子どもの様子」など一言コメントを追記
3	ペアレント・トレーニング等の家族支援プログラムや、家庭に役立つ情報提供の機会が少ないという評価が見られた。	・保護者が参加できる研修や相談の場が限定的であること、またその案内が届きにくい体制であることが影響していると考えられる。	・地域の福祉団体・教育機関・他の事業所等が主催する講座やセミナーの案内を定期的に配布・掲示 ・市や自治体のホームページに掲載されている研修・勉強会情報をまとめ、通信などで共有